

高齢者ゆるやかな見守り支援事業



2021年12月2日
兵庫県たつの市
セコム株式会社
株式会社チカク

発表者：兵庫県たつの市
健康福祉部高年福祉課 谷本

たつの市の概要

人口 74,875人（2021年10月末現在）

面積 210.87km²

地形 北側に山、南側に海があり、南北に貫く形で揖保川が流れている

気候 瀬戸内式気候（年平均気温は約15℃。温暖で雨が少ない。）

観光地 龍野伝統的建造物群保存地区、新宮宮内遺跡、永富家住宅、室津の町並み …

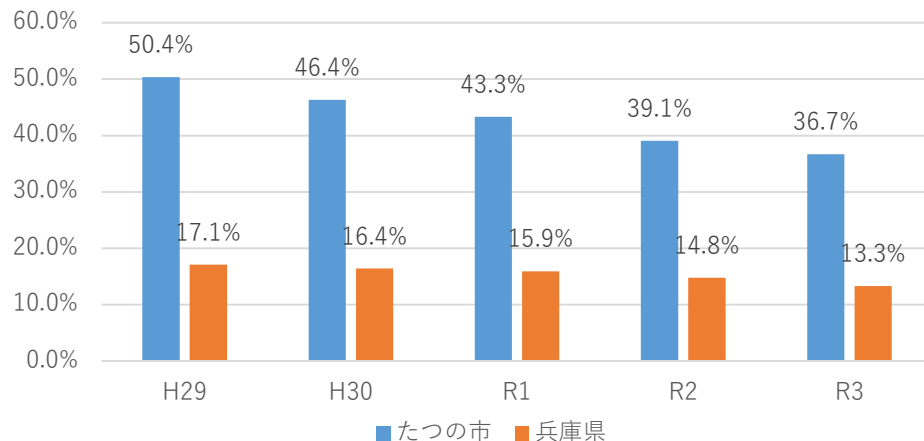
特産品 醤油、手延素麺、皮革製品、トマト、大根、牡蠣 …



地域が抱える課題

- 高齢化率の上昇（2020年のたつの市の高齢化率は31.2%。2045年には40.3%へ）
- 老人クラブ加入率の減少など高齢者と地域とのつながりが希薄化
- 独居高齢者の増加に伴い、孤独・孤立対策が問題

老人クラブ加入率の推移(H29～R3)



老人クラブの加入率は、県の平均を上回るものの右肩下がりで推移している。

■ 兵庫県
17.1% → 13.3% (▲3.8%)

■ たつの市
50.4% → 36.7% (▲13.7%)

新型コロナウイルスにより生じた課題

- お盆帰省や正月帰省ができず、離れて暮らす家族に会えない高齢者が増えている。
 - これまで行われていた集いの場や各種教室、趣味の講座等が中止されている。
 - 要支援・要介護認定を受けている高齢者は通所介護や短期入所生活介護によりコロナ禍でもコミュニケーション・見守りができている。
- 元気な高齢者が閉じこもりがちになり、フレイル状態に陥るなど2次被害が発生するのではないか。

ICTを使った課題解決

■市外で離れて暮らす家族が高齢者に会うことができず、健康状態の確認ができない。

→ ICTを使えば距離に関係なくコミュニケーションを取ることができる。
それだけではなく、これまで感覚的に行っていた見守りを数値化することができる。
(温湿度、照度等)

■これまで行われていた集いの場や各種教室、趣味の講座等が中止となっている。

■元気な高齢者が閉じこもりがちになり、フレイル状態になる可能性がある。

→ ICTを使えば、直接会場に集まらなくてもフレイル予防に取り組むことができる。

高齢者 × I C T における課題と可能性

【導入への課題】

- Wi-fi等の新たな通信環境の整備
- 複雑な機能や操作 < シンプルな機能や操作（サポート体制も必要）
- 新しい機器導入への抵抗感

★ 高齢者が I C T を活用し、普段どおり生活しながら上記課題を解決できれば「デジタルデバイド」解消への道筋も開けるのではないか。

→ 「まごチャンネル with SECOM」を活用すれば、解決できるのではないか。

まごチャンネル について

サービス概要

普段使っている
TVリモコンで
簡単に操作可能

まごチャンネル
実家のテレビにお孫さんの日常が映る
専用のチャンネルができるサービス



①スマホから動画や写真を送信



②ネット回線がなくても動画や写真を受信



③実家のテレビでそのまま視聴



④スマホに「見始めました通知」

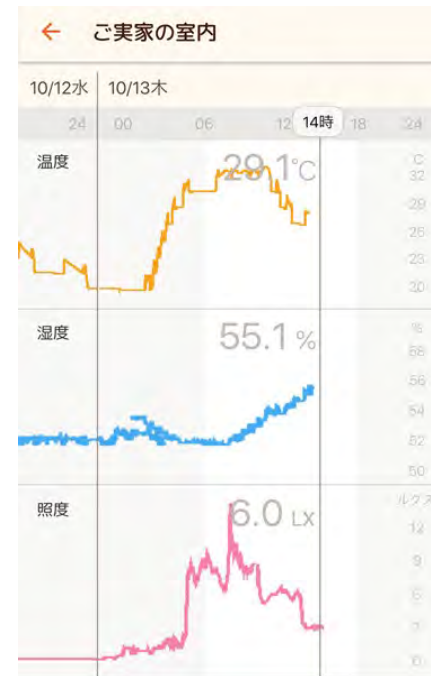
まごチャンネル with SECOM について

「まごチャンネル」の機能に、環境センサーを追加し、ご高齢者のご自宅の温度、湿度、照度、熱中症の危険度等を感じ、ご家族様にアプリで通知します。



ふだんがわかる
起床から就寝まで

部屋の中がわかる
グラフ表示



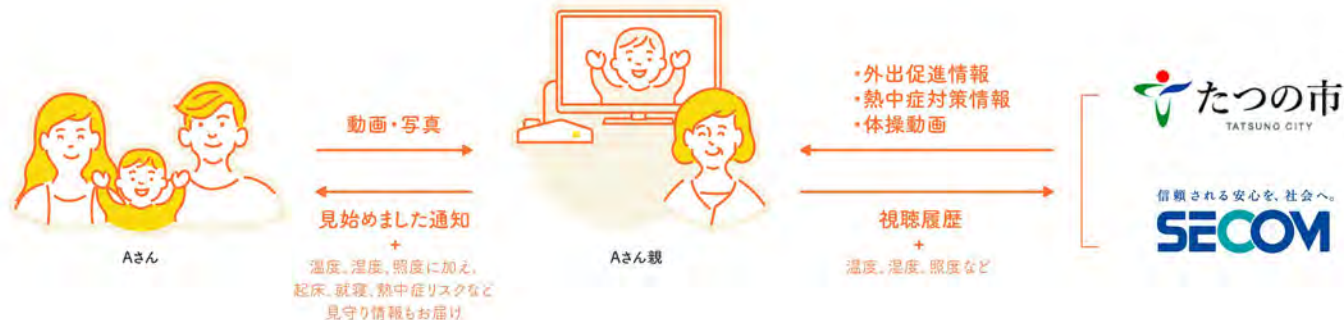
実証実験概要

■目的：フレイル予防及び熱中症予防に対して「まごチャンネル with SECOM」を活用できるか効果検証を行う

- ①ご家族及び自治体等の外出促進の呼びかけ（動画配信）で、高齢者の外出意欲が高まるか。
- ②ご家族及び自治体等の熱中症予防の呼びかけ（動画配信）で、高齢者の熱中症予防が促進されるか。
- ③ご実家の熱中症予防対策について、ご家族の意識が高まるか。

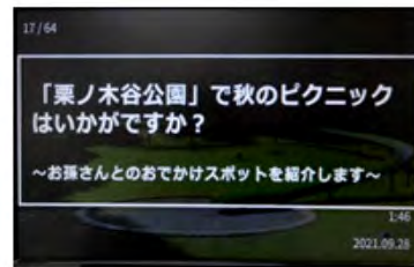
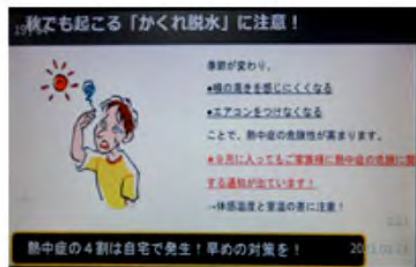
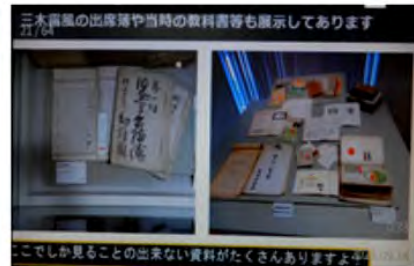
■実施期間：2021年8月17日（火）～11月16日（火）の3ヶ月間

■対象モニター：「市外に離れて暮らす家族が住む」たつの市在住の65歳以上の高齢者 10世帯



配信コンテンツイメージ

週3回 合計40本配信



中間ヒアリング結果概要

対象：モニター10組（10月4日～10月18日）

【検証項目1】

高齢者が「まごチャンネル with SECOOM」を活用できるか

モニター全員が問題なく活用できた

- 動画の視聴率は100%だった。
- 操作に不安を感じるモニターはいなかった。
「TVを見ることができればだれでも使える。」
- 動画配信ランプが光ると嬉しい、すぐに見ているというモニターも多かった。

中間ヒアリング結果概要

【検証項目2】

ご家族様及び自治体等の外出促進の呼びかけ（動画配信）で、
高齢者の外出意欲が高まるか。

**実証実験期間中、60%のモニターが
外出意欲が向上したと回答した**

- 紹介されたおでかけスポットに実際行ってみた。
- これまではコロナ禍でもあり、用事がある時のみ外出していた。
動画を見て夫婦で今度紹介された場所に行ってみようと言っている。
- 趣味の自転車にもう一度挑戦しようという気持ちになった。
- 孫の立ち上がる瞬間が送られてきて会いに行きたくなった。成長記録として活用している。

中間ヒアリング結果概要

【検証項目3】

高齢者の熱中症予防が促進されるか。
ご家族様の熱中症予防に関する意識が高まるか。

実証実験期間中、60%の家族間で
熱中症予防の声掛けを実施した

- 家族からの指摘でエアコンを購入した。
- 息子や娘から「熱中症大丈夫か。」「部屋冷えすぎていないか。」と心配の連絡が入ってきた。
- これまで息子は「LINE」を使い安否確認連絡をくれていたが、環境センサーで温湿度や起床・就寝状況がデータで分かるようになり、通知も来るので安心していう声があった。

中間ヒアリング結果概要

検証項目以外の周辺結果

- 開始前は「見守り」自体に抵抗感を感じる方もいたが、中間ヒアリング時には全員が抵抗感を感じず、むしろ「楽しい見守り」と前向きに捉える方もいた。
- 健康体操の動画を繰り返し見ていた方や、家族が体操マットをプレゼントした事例もあり、健康意識向上（フレイル予防）に一定の効果が見られた。
- LINEと併用している家族もいたが、TV画面に孫の顔が写るのが嬉しいという理由から、連絡はLINE、写真はまごチャンネルと区別していた。
- 広報誌は見逃すことがあるが、まごチャンネルは自分に関する情報が映像と音声で流れてくるから頭に残りやすいという声があった。

中間ヒアリングによる結果考察

ICTを使った高齢者への見守りの可能性

中間ヒアリングから得た結果考察

- モニターは離れて暮らす家族からの動画配信や、行政・セコムからの動画配信を楽しみにしている傾向があり、配信される動画への関心の高さが伺えた。
- 見守られているというよりは「楽しく」機器を活用されており、温湿度や照度等の情報を家族に知られることにも抵抗を感じなかった。
- 家族側も通知内容を確認し、連絡を行うなどコミュニケーション機会の増加が見られた。

今後の可能性

● 自助・公助・共助の強化

- ①2045年にたつの市の40.3%の方が高齢者。これまでの「公助」に頼るだけでなく、「自助」の強化は必須である。
- ②要支援・要介護になる前の元気な高齢者の見守りを気軽に始められるという選択肢の追加が可能となる。
- ③家族により温度・湿度、照度等の数値データを用いた「ゆるやか」な見守りを行うことが可能となる。
- ④行政から対象者にマッチした情報を配信し、健康予防を行う「公助」、民生委員や自治会・地域との連携を含めた「共助」など様々な方が繋がる新たな可能性を創出することができる。



ご清聴ありがとうございました